

異例づくめの「東京2020」が無事に閉幕した。幾つかの所見を述べたい。

1 異例づくめの東京五輪

一年延期、殆どが無観客開催、バブル方式による選手、関係者等の完全隔離方式の採用、開催直前には開催反対・中止論が野党や一部マスコミで喧伝された。また、大会関係者の不適切発言・解任劇等もあり、異例づくめと云ってよからう。

2 史上最高のメダル獲得数

国・地域	金	銀	銅	合計
1 アメリカ	39	41	33	113
2 中国	38	32	18	88
3 日本	27	14	17	58
4 イギリス	22	21	22	65
5 ROC(ロシア)	20	28	23	71

日本は金メダル27個で、当初目標であった30個には未達であったが、素晴らしい成果を挙げたと評して良からう。柔道日本の復活、新競技・種目での大活躍、兄妹や姉妹のメダル獲得も感動ものだ。ただ、残念なのは、メダル確実と期待された種目や選手が振るわなかったということだろう。五輪に絶対はないことを知るべきだろう。次回に向けて国家の総力を挙げるべし。

3 コロナ対策：バブル方式と無観客

五輪関係者の陽性率は、0.02%とされる。水際対策やバブル方式が奏功したのだろう。一部において、観戦自粛であっても密となった競技もあるが、コロナ対策は成功した。

4 開催時期、競技時間

猛暑多湿のこの時期の五輪開催は如何なものか、競技時間が夜間となったのも残念だ。最もゆっくり観戦できたという者も多いようだが、欧米の都合に合わせるのではなく、アスリートや観客のことを考慮すべきだろう。

5 日本的なおもてなしは？

五輪の良さは世界の人々の交流にあり、日本の良さを知って貰う最高の機会であったはずだが、コロナの関係で制約を受けたのは残念だ。それでもある程度は知って貰えたものと確信する。

6 多くの感動に感謝

戦いが終わればそこには同じ競技者としての連帯感があり、彼等が見せた多くの感動シーンに観客も同じく感動した。スポーツの力知るべし。
ここに至るまでのアスリート達の知られざる努力に惜しみなき称賛を送りたい。

7 日本だったからこそ出来たコロナ五輪

開催前には様々な議論があったが、開催すると決定されて以降の団結力、緻密さは流石だろう。この期に及んでもとやかく言う野党等もあったが・・・決まったら、それに向かって最大限の努力すべきだろう。

8 次回は本来の姿での五輪開催を切望

コロナが常態化しないよう、全世界的な対策でコロナを撲滅すべし。

(了)